



## いっぱい取れたよ

普代児童館（野崎貞信館長、園児78人）の園児たちは10月18日、緑区にある上下エキさん(66)の畑で、サツマイモ掘りを体験しました。

小さなシャベルを使って土を掘り、おイモさんが顔を出すと、「デブイモちゃんだー」「チビイモちゃん

だー」とあちこちで歓声上がり、傷を付けないように丁寧に掘り起こしていました。

「今年は大きいのが少なくてねー」と上下さんは残念そうでしたが、たくさん取った園児たちはご機嫌。最後はみんなでおいもさんを持って記念撮影しました。(写真)



## チビアンコウ発見

10月28日、太田名部漁港で体長15センチほどのキアンコウが水揚げされました。(写真)

アンコウはからはし網(定置網)で捕れたもので、尾びれに少し傷がありました。元気に泳いでいました。「通常アンコウは12月頃から水揚げされるのに、今の時期は珍しいですね。このサイズは初めて見ました」と村漁協の大上智業務部長さん。

アンコウは早速久慈市の水族科学館「もぐららびあ」に寄付され、治療を施してから皆さんに公開するか検討することでした。

## 郷土の歴史を学ぶ

普代中学校（木村利光校長、生徒105人）の1年生33人は10月19日、普代中恒例の「村内巡り」を行い、普代の伝統や歴史などを学びました。

この活動はさまざまな経験や知識を持った方から話を聞くことで、その生き方や考え方を学ぶことが目的。6班に分かれた普中生は、役場では村の医療や介護の現状、戦争体験談、村図書館では祭りや地名の由来、<sup>うのとり</sup>鵜鳥神社では義経北行伝説などを学びました。この内4班は、役場で三上岩富さん（79＝田野畑村）を講師に鵜鳥神楽について学習。(写真) 神楽の由来、道具やお面の種類などを質問していました。

